

会 議 記 録

| | |
|------|--|
| 会議名称 | 第2回杉並区社会教育委員の会議 |
| 日 時 | 令和5年10月31日(火) 午後3時00分～午後5時02分 |
| 場 所 | 中棟4階 第1委員会室 |
| 出席者 | 委員 諸橋、宮内、檜枝、南、天野、荻上、笹井 区側 生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館長、社会教育センター所長、管理係長(課長代理)、社会教育推進担当係長(社会教育主事)、教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事)、社会教育センター社会教育主事(社会教育推進担当係長)、管理係主査 |
| 配付資料 | <p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第1回社会教育委員の会議記録 2 杉並区青少年問題協議会委員の推薦について(依頼) 3 社会教育士について 4 第18期社会教育委員の会議 検討課題について 5 社会教育士を効果的に活用した学びの支援等の充実について 6 今後の会議開催予定について <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日経新聞(令和5年7月26日付)「UPDATE 知の現場」 2 令和5年度杉並区の教育 3 令和5年度版杉並区の図書館～図書館要覧 4 炉辺閑話No.69 5 「大正天皇の後 貞明皇后展」チラシ 6 令和5年度分館企画展 「建築模型からみる杉並のデザイナーー公共建築と景観ー」チラシ 7 POLARIS II 星空観望会チラシ 8 青少年委員だより第81号 9 とうきょうの地域教育～豊かな出会いと学びを～No.149 10 社教連会報No.93 |
| 会議次第 | <p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録について 2 社会教育センターおよび杉並サイエンスラボ「IMAGINUS(イマジナス)」の開設について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 杉並区青少年問題協議会委員の推薦について 2 今期の検討課題について 3 今年度の会議予定について |

(意見要旨)

- 議長 第2回社会教育委員の会議を始めます。まず初めに、生涯学習担当部長からご挨拶いただければと思います。
- 生涯学習担当部長 7月にセシオン杉並が再開し、10月には杉並サイエンスラボ IMAGINUS (イマジナス) が開設されました。エポックメイキングな施設ができたうえ、セシオン杉並の指定管理化によって社会教育センターは、社会教育事業により専念できるようになりました。
さらに杉並区社会教育を前進させてまいりたいと思いますので、後程ご提案させていただくテーマについてなど、活発にご意見いただければと思います。
- 議長 報告事項に移ります。事務局からお願いします。
- 社会教育推進担当係長 会議録の説明
- 社会教育センター所長 社会教育センター再開後の状況説明
- 管理係主査 イマジナス開設後の状況説明
- 議長 開設に関わる質問などありますか？
- 委員 感想なのですが、新しいセシオン杉並で行われた杉並区総合文化祭を見て、文化が私たちの生活を豊かにするということが目の当たりに実感できました。
- 委員 イマジナスは、区内の小・中学校の子どもたちとどのようなつながりを構築していくのですか？
- 生涯学習推進課長 今後、社会科見学などでお使いいただくなど、学校や地域とのつながりをつくっていきたくと考えています。運営事業者の方では既に「高円寺フェス」に参加して連携を始めています。
- 議長 続いて、協議事項の一番目は杉並区青少年問題協議会委員の推薦についてです。児童青少年課より議長宛てに推薦依頼がありました。社会教育委員の中からお願いをするということであれば、宮内委員が適任だと思いますが、いかがでしょうか？
(委員全員承認)
- 議長 二番目は検討課題についてです。まず事務局から説明いただきたいと思います。
- 社会教育推進担当係長 前期社会教育委員の会議では、社会教育士の意義と役割についてご議論いただき、まとめを作成していただきました。これから社会教育士に関わる取組を進めていく中で、社会教育士が横につながり、活動に広がり生まれてくることを考えますと、今期は「社会教育活動への支援のあり方について」ご議論いただくことで、学びを通じた豊かな地域づくりにつなげたいと思いますので、よろしく願いいたします。
- 議長 前期の社会教育委員の会議のまとめでは、社会教育士が全面的に強調され、区内で資質や能力を持っている人を育成して活動、活躍していただくことが想定されています。杉並区教育ビジョン2022及び杉並区教育ビジョン2022推進計画では、令和にふさわしい社会教育が求められており、その原動力になる存在が社会教育士ではないかと考えています。
社会教育は学校教育のように先生が指導する構造とは違います。議論

や実践がより建設的な方向へ進むように主体的な学習者の側面から応援するのが、社会教育における支援者の役割だと思います。

人生 100 年時代というのは、結局一人ひとりが人生をどう生きるかという問題です。一人ひとりが自分の人生を充実させるためには前向きにならなければならない、それには、チャレンジして失敗して振り返ってまたチャレンジするといった一連の学びのプロセスが必要であり、社会教育が重要なわけです。ですから、人々に生きがいを持って生きてもらうためには、社会教育士に地域の隅々で活躍してもらうことがとても大事だと考えられているわけで、これが前期のまとめで一番言いたいことなのです。

そしてこれをどう具体化するのかが、今期の検討課題なわけです。

実際に困難を抱えている人たちがいる中で、社会教育士に居場所やイベント、活動などとどうかかわってもらったらいいのか、ある程度具体的なイメージを出しながら、今期はまとめていけるといいのではないかと考えています。

- 委員 学びや教育と聞くと引いてしまう大人が多いので、私は現場で活動するときは使わないようにしています。企業が学ぶことを推進しておらず、日本は先進国では珍しくらい学ばないでいられるような社会の仕組みとなっています。なので、今期の議論にとっても期待しています。
- 議長 2006年の政府の会議から学び直しの必要性が言われてきましたが、学ぶのは子どもであって大人は学ばなくていいという文化的、社会的構造があり、なかなか進んでおらず、リスキリングが謳われはじめました。それでも日本全体にまだその文化が残っているので、どう打破していくかが問題だと考えています。
- 委員 地域で活動していると、学校教育とだぶらせて考えられやすく、学びとか教育という言葉が出てきた時点で、目当てやゴールまでの達成度で測られがちなので、そういったことも話していきたいと思います。
- 議長 学びも地域づくりもゴールに達しそうになると次のゴールが現れるという点でプロセスに着目する概念です。そのため社会教育はその人にとって今日よりも明日が豊かになるよう振り返りを大事にしており、そのプロセスに学びがあると考えられています。行政が住民の意識にまで踏み込むのは難しいので、事業の企画や実施に社会教育士が関わることはとても大事であり、社会教育士に期待したいところです。
- 委員 人は、決められた枠組みの中では抵抗を感じてモチベーションが上がらないが、自分たちが楽しみ、面白いと思うことにはやる気を高められると言われています。目的性と区民の自発性を重ねたところにアテンダーとして社会教育士をつけるなど、手がかりを検討できればいいと思います。
- 委員 リスキリングの話では、自分の能力を高めてやりたい仕事をやりたい、学んで自分を高めたいという意欲のある若い人たちが、乳幼児の親の中にもいるので希望を持っていますが、人生 100 年時代になって、退職後の長い人生、何をしたらいいか探し始める人が急激に増えるのではないかと思います。学びたいと思ったときに社会教育士に相談できる場が広がると期待しています。

- 委員 私は、ここでの検討を通じて、Z世代と言われるような若い年齢層に向けても何か扱えたらいいなと思っています。また、社会教育という言葉に抵抗感を持たれるのであれば、社会という言葉を否定するのではなく、その意味するところを改めて価値付けるように今期のまとめを作っていくのはどうでしょうか。
- 議長 社会教育という言葉は明治の終わり頃に作られた言葉で、社会はコミュニティーを意味し、仲間内で学び合うことと理解しています。若い人の中には、みんなが集まる場所は大事だと思っても、社会教育施設と聞くと、堅い、名称がダサイと思う状況にあるので、地域に浸透していくためには工夫が必要なのかとは思っています。
- 委員 顔を見知れるエリアにある学校は地域の核だなと感じることが多いので、学校の使われ方が今後の社会教育のヒントになっていくだろうと思います。
- また、社会教育士については、何かを教えてもらえるように思う区民がいるかもしれないので、在り方だけでなく置かれ方も難しいと思います。ただ大勢いればみんなが満足するののかということ、そうでもないような気がするので、検討する課題はたくさんあると思います。
- これから目指す社会に向けて、社会教育というものはどういうものなのかということも含めながら検討していけば、何かしらのよい結果を生むと思っています。
- 議長 社会教育というのは営み、実際の行動です。交流して知識が増える、コミュニケーションの中で気づきを得る、一緒に何かする過程で価値をつくる、共同作業でつくる、どれも社会教育です。社会参加は社会教育の前提条件として大事なことです。居場所を持つとか行事やイベントに参加するというのは、社会教育につながる大事な活動です。
- ですから私は、社会教育士の素養を持った人が大勢いて、居場所のマネジメントをしていただけるといいと思います。
- それが福祉だとカウンセリング、ソーシャルワークなど専門家に頼むことになりがちですが、そこまでいかない曖昧模糊とした活動が意外と重要で、そういうところに入ってほしいと思います。
- 従来の社会教育の枠組みをもう少し広げて、ノンフォーマルな教育だだが、その人の成長、発達に重要な意味を持つところに関わってくれたらと思っています。
- 委員 学校教育こそ学び合う場が今求められているのではないかと思います。不登校の子どもたちが年々増加して、全員が同じことを同じようにやる教育が無理な時代になっていると感じています。いい方向に導く立場の先生は必要ですが、子どもたち自身が話し合っって学び合う過程を応援できる仕組みに学校教育を変えるときではないかと思います。社会教育士が学校教育の中で先生を支えながら、社会教育的な視点で学びを変えていくことができたなら、自分自身を認めて、自分たちで問題を解決して、自分ができないことは誰かに頼って助けをもらうというコミュニティーができるようになるのではないかと思います。
- 議長 学校教育のミッションは価値の伝達ですが、子どもたちのコミュニティーの中でも学び合いや教え合いは行われていて、ある種の社会教

育的な営みがあることが分かります。これを吟味して、拡充していくべきという意見には賛成です。

○委員 私が今に至っているのはPTAに関わったところからです。PTAも学びの場ですし、町会の活動や議論はまさに実践なのだと思うと、意外に社会教育の場があるのだと思いました。ただ、PTAや町会というと手が出しにくい印象を持たれるので、遊びの延長のように教育の場ではないところで何かするというのは、いい提案だと思いました。

○委員 コミュニオンは地域性を指す場合もあれば共同体という意味で使う場合もありますが、今までの話はコミュニオンとして場づくりのレベル感をどう上げるかという話であると考えられます。場づくりのレベルを上げると考えると目標もないし限度もありません。困り事があったときに、地域が活性化する機能として本質的に何が必要なのかということが大事ではないかと思いました。

○生涯学習担当部長 昨日の新聞記事に高校生の自治会長の取組が掲載されていました。その高校生は不登校でしたが、親御さんと一緒に自治会に出席したところ、自治会長の成り手がなく、自ら手を挙げて自治会長になったそうです。外国語が話せるとか大工仕事が得意だとか、どこにどんなポテンシャルを持った人がいるのかを記した「コミュニティーカルテ」を作成するなど新しい取組を始めたら、段々まちの雰囲気がいい方向に変わってきたという内容でした。

発想豊かな若い人たちの力を引き出すことが、居場所や活動の起爆剤になると思います。ご意見を聞いていて、若者の力を引き出していくにはどうしたらいいのかに思いをはせました。

また、社会教育という言葉に構えてしまう人もいるかもしれませんが、参加しやすい素地みたいなものをつくっていく工夫を、我々行政も創っていかなければいけないとあらためて思いました。

○議長 ありがとうございます。それでは、議論はこの辺りにさせていただいて、今後の予定について事務局から配布資料の説明をお願いします。

(配布資料について事務局説明)

○議長 本日の議題は以上です。最後に生涯学習推進課長からご挨拶をお願いします。

○生涯学習推進課長 本日も貴重なご意見をありがとうございました。最近のスポーツの中には選手同士が技を教え合い、ライバル関係でも相手がすごい技を決めると喜んだり称えたりするものがあります。昔の指導者と選手のような上下関係と違い、仲間同士が教え合って磨き合って喜び合えるようなことが社会教育につながっていくのではないかと、お話を聞きながら思っていました。

既に社会教育事業は出前型で地域展開を図っていて、気軽に学べる環境を整えています。これからも進めていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

○議長 これにて第2回社会教育委員の会議を閉会します。